



心園禮集

一二

73
7098
1



173
7098
1

濱松小書集
内西旭圖書

高遠
本志
所
有
章

天下死定是而後謂之是桐字之於
 簡礼亦然樹木乎曾家鋪枝葉乎諸
 家遍摘其實自言吾藏之者非珍焉
 始煥天下之定是而後大成是已是以
 以不肯傳人焉予曰不然黃馬驪牛
 非人之所能辨且以此傳人有亦式

57-2433

因是矣喜之者固是謂之者而是也
於是天下之定是可方得已不知予
言果是也耶抑果不是也邪桐子况
曰請記諸篇首仍書于時索良仲
秋望日 平安藤鏐父

簡札集凡例

一 簡札の格式を以て其の體裁を以て其の善否を以て其の
乃 簡札の格式を以て其の體裁を以て其の善否を以て其の
用 簡札の格式を以て其の體裁を以て其の善否を以て其の
二 簡札の格式を以て其の體裁を以て其の善否を以て其の
一 簡札の格式を以て其の體裁を以て其の善否を以て其の
と 簡札の格式を以て其の體裁を以て其の善否を以て其の
ふ 簡札の格式を以て其の體裁を以て其の善否を以て其の
と 簡札の格式を以て其の體裁を以て其の善否を以て其の
海 簡札の格式を以て其の體裁を以て其の善否を以て其の

一巻の終りよと云はれしは
その外よあつたの事細い事
わだかましくはつた事
別り一集りし事
いふに色々ある事
てきとふ人の事

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

第礼集巻之二



●三書礼すは事

礼の紙の端は
三寸六分の日付
と云ふ事
乃と云ふ事
八分あり
後見り
六の事あり
二寸八分
二寸八分

いひ傳ふきんをいひ伝ふるに似たり。但紙よ長短
ありて又書きしと長短あまは今の時のめとてい
用しつてむ古法に似たり。或紙よ長短
或紙よ長短の紙の勢一つがて書きしと
又紙よ長短の紙の勢一つがて書きしと
懐中一冊あり唯と紙の長短度狭り
あつていしては二行がどどと書きしと
れは書きしと上の書書双方り書く紙も中
の又書きしと上の書書双方り書く紙も中
今書通は書きしと上の書書双方り書く紙も中

と用ふもしりあり

●中四料書一紙のり

地下の傳りしと六倍のやまきで松原の紙りて書
人いふも中状のたきしと紙ありてい寸あり也
面い寸あり也い寸あり也い寸あり也
但捨ハ紙幣より二方より寸あり也
書見よ尺膜と寸あり也い寸あり也
書通より寸あり也い寸あり也
う海用あり也い寸あり也
その但書紙なりと名別の書ありきしと

香林苑の抄をくはし其深奥の古抄をくはし
より其用の多し又修程も

●中入書留種方の事

中入の種をい極くおき入大形今よりおき
あり唯らんざんすることききしんその法を種と
あり今一五種をいよせり

けあし種官紙抄抄家作 とね紙ありきありき

けあし種官紙抄抄家作 同紙あり

けあし種官紙抄抄家作 同紙あり

けあし種官紙抄抄家作 同紙あり

上中

けあし種官紙抄抄家作

中上

けあし種官紙抄抄家作

中中

けあし種官紙抄抄家作

下上

けあし種官紙抄抄家作

下中

けあし種官紙抄抄家作

下下

けあし種官紙抄抄家作

●中入編付の事 并 各書あり

脇付の書大形ハ宛あり名の下より二字目程より
下より又通目ありこれなりと二なりと下人の書
より

上 素人の抄中 は中の書下より各別あり

中
くわ中

上
糸之部

中
中ノ部

中
少部 たの目より其の少部は其のその部を部り部

右の印小田園田 右の印小田園田 田子巻言田耕 田子巻言田耕 ありまの部

少部 少部 ありまの部 ありまの部 田子巻言田耕 田子巻言田耕 ありまの部

えらと但用方勢 えらと但用方勢 せうよハ其用 せうよハ其用 ころん

少部 少部 ありまの部 ありまの部 田子巻言田耕 田子巻言田耕 ありまの部

えらとわつと大 えらとわつと大 ね ね ありまの部 ありまの部 田子巻言田耕 田子巻言田耕 ありまの部

とやと とやと 文 文 少部 少部 ありまの部 ありまの部 田子巻言田耕 田子巻言田耕 ありまの部

少部のま 少部のま

とよハ少部の とよハ少部の ね ね ありまの部 ありまの部 田子巻言田耕 田子巻言田耕 ありまの部

とやと とやと 文 文 少部 少部 ありまの部 ありまの部 田子巻言田耕 田子巻言田耕 ありまの部

あり

上
謹上 律上 好上

律上の時 律上の時 上書の名 上書の名 ありまの部 ありまの部 田子巻言田耕 田子巻言田耕 ありまの部

恐惶謹言

恐惶謹言

少部

少部

少部

真の思作と志の振付と事ふ事と用ひ事申お事面の礼あり
去り小思作は御しよはあおのりて御しよと申し
と行致しと申しありと申しと申しと申しと申しと申し
と申しと申しと申しと申しと申しと申しと申しと申し

存と事もの古を振しきりかゝりていふあり
後振とつゞきまゝとて思作と申しあり
今時にも思作の付は振成りていふありこの後
の字と真事ものことと申しと申しと申しと申し

殿 後 後 あり

あぐりやうと申しと申しと申しと申しと申しと申し
かぐり申かまゝと申しと申しと申しと申しと申しと申し
と申しと申しと申しと申しと申しと申しと申しと申し
と申しと申しと申しと申しと申しと申しと申しと申し
わあ

此のころと申しと申しと申しと申しと申しと申し
と申しと申しと申しと申しと申しと申しと申しと申し
と申しと申しと申しと申しと申しと申しと申しと申し
と申しと申しと申しと申しと申しと申しと申しと申し
と申しと申しと申しと申しと申しと申しと申しと申し

後と申しと申しと申しと申しと申しと申しと申しと申し
と申しと申しと申しと申しと申しと申しと申しと申し
と申しと申しと申しと申しと申しと申しと申しと申し
と申しと申しと申しと申しと申しと申しと申しと申し

●第七 封の事

封の事と申しと申しと申しと申しと申しと申しと申しと申し
と申しと申しと申しと申しと申しと申しと申しと申し
と申しと申しと申しと申しと申しと申しと申しと申し
と申しと申しと申しと申しと申しと申しと申しと申し

た流より下へ

●中八判の更

名乗と杖乃下の端と同海より書付と判ハ一字
り下へしとれ書海より下へ人ぬらと又杖乃下の
端と判の下乃とつ書と同海より下りあるへ一他
判形とけたたれハ根籍の交あり女内封切等
なると判あり或は移し捨りもりくしてふた判
と下り

判とつありのな書と日乃下へ書とやつとぬ
ふ形ありととるなよりおよ判ありといふ根を

又ハ判ハ物と三つのはよりありといふ形つととあり
りふ一ありといつたりふろ下へありといふもつり但
判は後様乃ありいといつありありと判より家
やうの判といふあり

●中九 ひと書と事

昂下杖の口ふひと書と事と扱てありと税ありと
ふは死人とれねそとと体よそありといふありといふ
つととねた書様とと根よひとといつありの物あり
扱ねるといつねくよ事と事なれハ一人死とのやう
く事つととれありといつと市杖とよと長と事

とありしむのつこの付封目となくしせそそおは
祿乃どくあり

管カクありては書^{ケツ}は用家^{ケツ}も何れも管
さうは由と用家也と名^{ザン}状^{ザン}よりさうは

● 中十四書つふの事

世ドと書決といふ事と秘^ヒ傳^{デン}する也子細^シを
わりしんと書考^{コウ}の状^{ザウ}に先^{サキ}中^{チュウ}二^ニの^ノは
字^ジがさうある極^{キョク}よつてそのかもしさうの^{コト}
あ^ハら^ハら極^{キョク}よつて一人の名^ナ又^{マタ}は用^{ヨウ}の^{コト}
とありて存^{ゾン}る^{コト}は式^{シキ}の^{コト}を^ニ付

たとのまど有^アる^{コト}にさうも書^カく^{コト}にわ^カり^{コト}も
名^ナの^{コト}もあ^ハら^ハら極^{キョク}よつてそのかもしさうの^{コト}
あ^ハら^ハら極^{キョク}よつて一人の名^ナ又^{マタ}は用^{ヨウ}の^{コト}
とあり

管カクありては書^{ケツ}は用家^{ケツ}も何れも管
さうは由と用家也と名^{ザン}状^{ザン}よりさうは
この事^{コト}も先^{サキ}中^{チュウ}二^ニの^ノは
く^{コト}もあ^ハら^ハら極^{キョク}よつてそのかもしさうの^{コト}
あ^ハら^ハら極^{キョク}よつて一人の名^ナ又^{マタ}は用^{ヨウ}の^{コト}

● 中十五書つふの事

道平入の程をせし中書ししみる中又の解と
くことゆり大程に中又の用は用ふ事あり或
時男又よりなる事あり道平たゞ目よりて
能く判りたる事となくしてかゝる事と
ある事ありは道平書の上と先や中と
事平又の中やどらとさう物事のあつて
又とさうと物事とらとあつて法との事書
ありありいふとく事書のなるにせしむる事
しる事とせしむる事

道平入の程をせし中書ししみる中又の解と

とく事とせしむる事
しる事とせしむる事
事平又の中やどらとさう物事のあつて
又とさうと物事とらとあつて法との事書
ありありいふとく事書のなるにせしむる事
しる事とせしむる事

○中十六又字つひ極く変并りふの事

消息よまよりくひ事とせしむる事
事平又の中やどらとさう物事のあつて
又とさうと物事とらとあつて法との事書
ありありいふとく事書のなるにせしむる事
しる事とせしむる事

道平入の程をせし中書ししみる中又の解と

未く悔ふいふ及そ此あり仁中惟賢をいふ
ハ一切を申す

●中十七 空に枝葉状書あり
空に枝と云ハ状の中よ是の名どうと云ハ
家目ある人何名と書て協付と書あり枝葉状
と云ハ中よ是乃名と云書空に枝と云ハ
わろいおれの人乃名と云てて協付あり大形に
小形にあり又枝葉状と書と様と云ハ
正しくする様と云と云ハ正しくする様と云
ハ枝葉状と云と書て協付と云と云ハ枝葉状あり

一入致あり之能くもてわろいおれと云

後乃よ未く枝葉状空に枝と云ハ
云ありおれ状と云あり但枝葉ありと云ハ
信ふと云と云ハ下を判わろい
正しくする様とお高を判わろい肉體
右の二種と云わろい正しくする様と云ハ
わろい

●中十八 女中と云

女中一の状獨り云と云ハ正しくする様と云ハ
飛わろい但枝葉と云ハ正しくする様と云ハ

伏見紙二枚よりぬりて一枚とすのり
 用ふ也礼書ありてくばぬあて封とすは合意
 乃ち書紙あり高付みか合意とすなり也封自
 にかりりぬ一冊を紙と云ふ紙のてらと押ひし
 じり事紙乃ちとせりてと拾也一紙は中へは紙を綴
 後より想いで見せ居へ乃伏見と云ふ紙あり
 ありと封ひて礼書ありて封とすなり
 口傳

伏見紙二枚よりぬりて一枚とすのり
 用ふ也

名前の人の字はかみ下の子とすありて
 つかに下は字と海ありてと書紙ありとありととゆふあり
 つかに下は字と海ありてと書紙ありとありととゆふあり

編りけの詞

上、
 中、
 下、
 中、
 下、
 上、

先の名はかみ下の子とすありてと書紙ありとありととゆふあり
 つかに下は字と海ありてと書紙ありとありととゆふあり

本園寺 山内右中一 寺座下 寺座下
町名上人 山家^{山家}の長毛^{長毛}より 寺座下より

寺僧致白 寺僧致白

月日

金堂上人 山内右中一 寺座下

金堂上人

山内書小と 寺僧上人 寺僧上人

金剛寺 寺僧中一 寺僧中一

大徳寺 寺僧中一 寺僧中一

新川寺 寺僧中一

熊野山 寺僧中一 寺僧中一

松尾三徳代 寺僧中一 寺僧中一

白山お長建寺

春尾寺 寺僧中一 寺僧中一

僧中一 寺僧中一 寺僧中一

●寺僧 寺僧中一

寺僧中一 寺僧中一

巨額 寺僧中一 寺僧中一

月日 寺僧中一

初修の中納言殿

大臣家より

直取奉り進上

月日名

以右年中毎度

同院沙汰

しるし縁に取沙汰候

くし取中

月日 実名

別當よりしるし取中候

天正中又此書取られり事と云く書付治り也但
將軍家より上書取られり事と云く書付治り也但
是れはあてなり大臣
しるし取中候

大臣家よりしるし取中候

書細とある事と云くしるし取中候

しるし取中候

月日 実名

以右年中毎度

書取られり事と云く書付治り也但
將軍家より上書取られり事と云く書付治り也但
是れはあてなり大臣
しるし取中候

大中納言系系然りと女系もきき流し
じうしゆらうん
はひらうん

月 名

自内内なるもの

大納言らと親王なるものは

誠恐謹言 中 家司名

中納言らと親王なるものは

某恐惶謹言 家司名

系系二位と位らと大長なるものは

進と某恐惶謹言 或は子息或は家司名

系系位らと大長なるものは

以て名了令渡り給ひ言ふは件

某恐惶謹言 家司名 某

四位と位らと人らと大長なるものは

以て名了令渡り給ひ言ふは件

某恐惶謹言 家司名

大長系系位らと人らと大長なるものは
あり先固くしるべき

四位と位らと人らと大長なるものは

長ら言と押付しははし

いふ海あり 天下の口位又位の執事よりと大にあらわれの礼に
以て社社言ひてと云ふまじり

三出依の括系よ準じ四蔵を信たす準し結
信ハ大納言より準ずるとさうし頼通云々也

後乃武家の執事ハる家武式ノ印と云
あへ

將軍の御人たるハ

右方格ハ為年格ノ沙礼沙名刀一腰 札
沙名一足印善細刀足致進とく作て御格
下取沙礼名ハ也様様

正月廿一日 札

伊勢守書

まほふらと進とく請てめはありとく一とわいさ
の人辨ふらとく人今もあつと口相家の田字除と
あつと大礼進と書とく付あつと字あつと回
進と事とく一字行りて進はれとく一と
之宛を奥よりみこつと

●才七一 徳生松 付 印 札 事

言ふより名由進生ハ付と母あつとさ
袖あは沙着中 せんちゅう ちとま 借姓とく一と

信名実名ありたりとも同よ字の上下ありて
名と書と論く一向に書と書と清とと書と
と字と名ととたよ半と書とけりるみさる早
れありありありありありありありありあり
まどさても紙乃すはる名その紙よりより
よりおれも同也

清と名実名ありたりとも同よ字の上下ありて
名と書と論く一向に書と書と清とと書と
と字と名ととたよ半と書とけりるみさる早
れありありありありありありありありあり
まどさても紙乃すはる名その紙よりより
よりおれも同也

と作のちり目録無極そのの侍は紙と書なりそ
の侍とと書ありとたた力より馬の侍より
毛付ありと書なりと書なりと書なりと書なり
と他の侍は紙と書なりと書なりと書なりと書なり
書状よ半同と紙と付と書なりと書なりと書なり
侍り書侍り書なりと書なりと書なりと書なり
よと年あり代るの侍は紙と書なりと書なりと書なり
も御との侍り書なりと書なりと書なりと書なり
とそ目録の事ありと書なりと書なりと書なり
おれんと書なりと書なりと書なりと書なり

各列の表あり

古刀折紙の御書の手紙の事とありてあるとてつるは後志
のう書と表^{づい}りしけあるとてつるうううの事あり
あり奥よりある大抵の目三言文記の馬代
りうの御書とばましとある御用先とて一^イ出^ヤるの事
ありありとてしる^と息^とけとあり也

横書(お軍家)のりし沙進上目録とあるなり

御太刀	一腰
御馬	一疋
以上	

進上も此実名ありか
大なる檀^{自宗}幣^まを板押
おとく伊勢も^{自宗}網^ま進^ま社
り^{自宗}作^ま古^まく^ま書^ま紙^まと^ま表
も^{自宗}菊^ま意^まう^まる^ま自^ま宗^まり
中^{自宗}付^ま天^ま西^ま千^ま九^ま比^ま治^まり
一^{自宗}回^まあり^まる^ま又^ま一^ま冊^まも^ま同

元禄^三五年七月廿六日 沖泰肉沙進^三目
孫尚祐^三の徳^三の^三主^三新^三西^三右^三

御衣^三分^三一^三腰^三
御馬^三一^三疋^三
以上

し^三徳^三之^三君^三の^三徳^三あり^三と^三進^三と^三徳^三難^三く^三る^三は^三る^三よ^三お^三網^三上^三

意^三と^三何^三休^三意^三よ^三傳^三養^三る^三は^三く^三下^三は^三肉^三籠^三く^三旨^三被^三伝^三
お^三し^三る^三は^三意^三意^三又^三為^三籠^三籠^三移^三成^三源^三なる^三お^三も^三し^三移^三業^三
伝^三る^三廣^三稿^三お^三肉^三府^三云^三云^三末^三大^三納^三なる^三は^三お^三も^三海^三下^三後^三
以^三意^三又^三一^三伝^三を^三作^三と^三名^三よ^三り^三し^三る^三は^三傳^三傳^三く^三也^三
傳^三の^三別^三也^三意^三又^三中^三と^三作^三し^三伝^三よ^三網^三を^三也^三

右^三の^三傳^三傳^三面^三守^三は^三口^三傳^三を^三也^三

將軍^三お^三ら^三し^三振^三振^三清^三花^三ハ^三小^三の^三籠^三傳^三傳^三一^三わ^三り^三し^三を^三
川^三合^三一^三意^三沖^三字^三の^三一^三意^三も^三沙^三傳^三の^三お^三し^三振^三振^三
ら^三し^三將軍^三お^三ら^三し^三も^三意^三も^三の^三お^三し^三振^三振^三の^三お^三し^三一^三意^三又^三一^三
冊^三の^三清^三花^三ハ^三意^三名^三と^三書^三傳^三小^三の^三字^三わ^三り^三但^三當^三流^三也^三

折家同好は傳事也 涉の紙を在るるに奥より
院とがら也

或はよむても昔ははるきとや平くはるの事也
名りかき一帯一に合一枚あり

石橋法門のきとぬる名案づり也と穢もかしのし
たはりの名案ふ書しく名字な計也山名同好

考中よりと折家大中納を等しくまふよ海とた
名案の傍よと字あり能名案名句編を

惣利と家よと名とやう用しく名の傍よと名案
付て名とれ故よ用ら也 萬事うぬふらむら信也

進上上九 中八 下七 太刀上九 中八 下七 馬上九 中八 下七 同とらのわん

以上は折家へうあり又と行りありり行とれ
つと名と又字と表表ありと冠帯うけりもすてると分
行帯はもう也

別表への付は物とらして紙毛付と下ふ中との
とてと付は紙毛付とらと帯とすてと表表がど
と云らあり

真 上中下 名字友名案

り 同右 官名案

系 同右 友又の
名案あり

たゞこの位に在るとは穢へたれは穢ありこれを
と申すをよきと申すは又ある事也

御方	一腰
御馬	一疋
空	一疋

名子安

進上あり
名子安あり
御方あり
伊勢より穢へたもの
の字除く奥も伊勢
とありあり

六事ありとよ言へてあり

あゝ穢當付の同書へ用ゐるやむとらへて小書
系よりや物よりと好まぬ別へたけら穢を作
たへ四字沖へしてある者あり

御方	一腰
御馬	一疋
空	一疋

名子安あり
大御方よりあり
上よりありあり

沖方一腰
 馬一疋
 上

斤數の形等一あり
 る小字ありしは
 上とらるがより方へ
 用ひたるも同や
 了りたるは道付の
 物也

沖方一腰
 馬一疋
 上

沖方の方又ハ田樂
 後示あり月人
 上向ありと又結り下
 あり
 上の字もこの形に
 人ありあり

沖方一腰
 馬一疋
 上

名物の通大納言の御衣の
小振袴の口通し目録

御太刀	一腰
御馬	一疋
以上	家光

小振袴の口通し目録
小あぐら一疋

御帯刀	一腰
龍馬	一疋
以上	

雄釵	一振
龍蹄	一疋
以上	

腰片

小太刀一腰
御衣の中
小振袴の口通し目録
小あぐら一疋

へ

その方とて同日一なるふくどおれ目とるるてらるては是
らふれれの徳れけけのりてト
上るふりけけのりやけけのり
及下ふる然るやけ

三つより口小き刀と云 けよる奥よとせし	沖太刀 一腰	沖馬 一疋	心
------------------------	--------	-------	---

御太刀 一腰	御馬 一疋	心
--------	-------	---

その方とて
ての徳れけ
の徳れけ
りけけと
の字あり
又同くふ
ら徳れけ
り

らふれれの徳れけけのりてト
上るふりけけのりやけけのり
及下ふる然るやけ

一腰とてのりたてり

進上	御太刀 一腰	御馬 一疋	心
----	--------	-------	---

上るふりけけのりやけけのり

細川家大ゆりし事柄とをなすも川合一枚折て
 う終り也之れを折る事柄より一枚の目録
 たる目録

進上	一腰
津右	一正 <small>下</small>
津馬	一正 <small>下</small>
目録	晴元

料券の川合より
 進上津右津馬
 ありて
 目録一より
 名案の一枚正折らるる

二文折券一付

進上	一腰
津右	一正 <small>下</small>
津馬	一正 <small>下</small>
目録	伊守 貞宗

船服も数枚ありて是れ不
 書りし少ゆきと
 下と上書候より
 れる事自一文折券の
 付し事ありて一付
 二方と申合意と
 有候事也伊守貞
 めけりとの事と
 別し進上貞宗

又

目録の系

録毛平あり

付ハ

右馬目録

毎部各年

と大威云云

と云々云々

少抄あり付ハ

右馬目録

長洋紙付年と書て並列せ也

右馬目録

年号

月日

細部各年

付ハ

右馬目録

これら各年と書て並列せ

あり

右の下と云々云々

と云々云々の各年と書て

御家付馬目録の目録
目録

道工	一腰
御太刀	一腰
御弓	一腰
御袋	一腰
御馬	一疋

當り小の各年と書て並列せ
 中は右の目録
 流ゆると書て弓矢の各
 にかとあり
 右の式正門物物の目録ハ
 大飛け紙とあり
 澄り糸の色とあり
 此の板の色とあり也

細川九条河原下町の目録材坊の中へてはるは
古の経

進上	御大分	御書	金襴	御鳥
一腰	御書	二幅	二巻	一丈
<small>御書</small>	<small>御書</small>	<small>御書</small>	<small>御書</small>	<small>御書</small>

奥下家心算の帳入のありまは

全邦目録の経と云ふ方々へ差のたむるに

主人書人しやうは
萬のりきくは
心算書人しやうは
心算書人しやうは
心算書人しやうは
心算書人しやうは
心算書人しやうは

万正
各字官
釋

おまへはけりあふ
 下等の人様来るごとく
 是れはいつと付いぬとも
 あり
 高野の末輩もさう
 のまへに位あり難
 也のづくともいふ也

水屋中書

百七

後乃ふおらると新あふ起の徳も実あふの名列
ケイコウトウマウヤコウ

此でふ新くたへん

推升 名ありの信子能
名ありの信子能 名ありの信子能
名ありの信子能 名ありの信子能

成忠 名ありの信子能
名ありの信子能 名ありの信子能

源姓あり 名ありの信子能
名ありの信子能 名ありの信子能

細川左多能 功徳武揚
名ありの信子能 名ありの信子能

上吉とと織 名ありの信子能
名ありの信子能 名ありの信子能

山名金吉 名ありの信子能
名ありの信子能 名ありの信子能

武田左孫 名ありの信子能
名ありの信子能 名ありの信子能

つとむる子信あじいさく 咄名金吉りり也
名ありの信子能 名ありの信子能

小女例式名金吉のこよ 咄名金吉りり也
名ありの信子能 名ありの信子能

あり古の書ふははるに括抱の蟹の先細鳥とい
 蟹といふはさうのさうのさうのさうのさうのさうの
 けさうのさうのさうのさうのさうのさうのさうの
 とらひ種をさうのさうのさうのさうのさうのさうの
 とはなすはなす也

莫多目録といふ

莫多目録といふ
 莫多目録といふ
 莫多目録といふ
 莫多目録といふ
 莫多目録といふ
 莫多目録といふ
 莫多目録といふ
 莫多目録といふ
 莫多目録といふ
 莫多目録といふ

進上	白鳥	雁	鵜	雞	海月	望上
一羽	一羽	一羽	一折	一折	三桶	望上

毛刺書次
 秀順

是ハ主人書人ハめい
 莫多目録といふ
 格乃さうのさうのさうの
 格乃さうのさうのさうの
 格乃さうのさうのさうの
 格乃さうのさうのさうの

目録	一冊
鱈	一冊
海老	一冊
蛤	一冊
網	一冊
鱈	一冊
鱈	一冊

或は... 鱈... 海老... 蛤... 網... 鱈... 鱈...
 鱈... 海老... 蛤... 網... 鱈... 鱈...
 鱈... 海老... 蛤... 網... 鱈... 鱈...

先... 鱈... 海老... 蛤... 網... 鱈... 鱈...
 鱈... 海老... 蛤... 網... 鱈... 鱈...
 鱈... 海老... 蛤... 網... 鱈... 鱈...

鱈	一冊
海老	一冊
蛤	一冊
網	一冊
鱈	一冊
鱈	一冊

先... 鱈... 海老... 蛤... 網... 鱈... 鱈...
 鱈... 海老... 蛤... 網... 鱈... 鱈...
 鱈... 海老... 蛤... 網... 鱈... 鱈...

白てり	一升
ゆり	一升
ゆかり	一升
あじふか	一升
やまゆき	一升
いたる	一升
山	一升

老人女中しるしの女らとらふ名と雑肉丸又女の身計
 の身とらふとらふの身とらふ名と雑肉丸又女の身計

名とらふとらふの身とらふ名と雑肉丸又女の身計
 とらふとらふの身とらふ名と雑肉丸又女の身計

はちまきしるしと但人よしとらふとらふ名と雑肉丸又女の身計

進上	一升
饅頭	一箱
海苔	一箱
素麺	一箱
御持	一箱
山	一箱

名とらふとらふの身とらふ名と雑肉丸又女の身計
 とらふとらふの身とらふ名と雑肉丸又女の身計

賢くは

右月々沙 堂基をくふ何ハ

進上	十合
御折	十合
御橋	十荷
以上	

吾は寺
養虎

りあしゆぐ一とすま
もわつとゆけはる号紙
半あり
後乃々上流きち号ハ
名号子婦号同す也
乃号ハ能名同す
実名ハ名号同す

進上	松竹
御橋	十合
御折	十荷
以上	

名号
名案

お中まされはるまじり名号
右流子書くはふ及
今より名案りりし流
ても
お案即柳十荷と云
此よりは天の所と云
入へし名案は流と云

おと命と書まはの寸法撰きたる乃内よん
付家もわつとゆけはる号紙
くはる名案りりし流

●才三 安部小抄紙之事

三つありて中一を

書し

神古の紙もたふし

官憲し其の在る事

純因律字をくはぬ

人なり也

六月廿日 小判

土橋のり

文のありて文の半
仁三のち純九

安部小抄紙

申 在る事

細川氏

書

はたしやん

申 在る事

仁本
秀久

●才四 沙律下之事

恒秀忠公 松平服部公俊 (らまの島書)

大子をぬりしりて

いふにやうなうたへいりて物

たふさるひ

若手友

ありり日

名系判

作方 山若水

は逐らりてたふさるひとては物ゆはありて
これありては物ゆの中程より一字計書て月日
名系とらりてとて

若手集の中二流

